

「^{クレド}信仰宣言」

のカテケーシス

(II) 「父のひとり子……………」

主イエズス・

キリストを信じる」 (1)

竹山 昭

新約聖書から現在に至るまで、キリスト教にとっておそらくもつとも根本的な問いは、「あなたたちはわたしを何者だと言うのか」(マルコ8・29と併行箇所)というイエズス自身の問いかけに示されている。キリスト教はこの問いに対する応答いかにかかっているものであり、この応答の独自性のゆえに、ユダヤ教からその袂を分かつことになったのである。

新約聖書が伝えるもつとも簡潔な、そしておそらくもつとも初期の信仰告白の形がこの問いへの応答の形をとっているのも、ごく当然のことであろう。「イエズス・キリスト」「主であるキリスト・イエズス」、「神の子イエズス・キリスト」などは、みなこの種の信仰告白を表している。現代のキリスト者たちも、「父のひとり子、おとめマリアから生まれ、苦しみを受けて葬られ、死者のうちから復活して父の右におられる主イエズス・キリストを信じます」と告白するとき、あのイエズスの問いに自分たちの答えを表明しているわけである。

一、おとめマリアから生まれ、
苦しみを受け、葬られ……………」

「イエズスはだれか」という問いに対する応答としては、「父のひとり子、主イエズス・キリストを信じます」で十分